

2学期終業式

令和2年、そして2学期が終わります。皆さんにとってどんな年、どんな2学期でしたか。

ところで、冬場を迎え、テレビでフィギアスケートを見る機会が増えました。フィギアスケートは、周知のように、60m×30mのスケートリンクで約2kgのスケート靴を履き、可憐な衣装を着て、ステップ・スピン・ジャンプなどの技術に加え、音楽に合わせて優雅に舞を披露する競技です。そのため、氷上の芸術とも言われます。ちなみに、フィギアとは図形という意味で、スケートリンク上に図形を描くように滑るところからこの名がつけられています。

一見、華麗にして優雅なフィギアスケートですが、肉体的にも精神的にも非常に厳しい、キツイスポーツだと私はいつも思います。まさに自分との闘いです。フィギアスケートは、技術力や表現力を高めるために、毎日何時間も、何度も何度もジャンプやスピンの練習をするそうですが、失敗すれば冷たく硬い氷の上に叩きつけられます。その痛みを耐えて笑顔で演技を続けなければなりません。そして、コーチとともに失敗した原因を探り、再び何度も何度も練習します。本番では、プレッシャーを撥ね除ける強靱な精神力で数分間のドラマを演じきらなければなりません。

どんなスポーツでもそうですが、表面的な光の部分に焦点が当てられがちですが、実は目には見えない陰の部分で、自分自身との苦しい闘いを繰り返しながら、そして多くの汗と涙を流しながら、どれだけ挫けず努力できたかということが肝要であり、そこに真の価値があるのだと思います。このことは、スポーツだけでなく、学習も含め、すべてのことに当てはまると思います。

フィギアスケーターの浅田真央さんは、「駄目なときでも、立ち直れるんだよ。ちゃんと原因を考えたら、どんなことでも乗り越えられる」と語っています。うまくいかなかった原因としっかり向き合い、その上で試行錯誤しつつ、弛まめ努力を積み重ねることが大切であると言いたいのだと思います。

話は変わりますが、長く教員を続ける中で、強く印象に残る生徒が何人もいます。

その中の一人、弱小ラグビー部の生徒です。悔いを残したくないと3年11月までラグビーを続け、連日早朝も放課後も猛練習するも県大会1回戦で大敗、「やりきりました」と爽やかな表情で報告に来ました。引退後は中途半端な状態で大学受験をしたくないと現役ではセンター試験も含め一切受験せずひたすら猛勉強し、一浪して第1志望の筑波大学合格。筑波大学ではラグビー部に所属しレギュラーとして活躍。その勇姿を何度もテレビで見ました。現在は母校で高校教員をしています。

もう一人。国公立大志望で、5月にサッカー部を引退し猛勉強するも、前期日程と後期日程で第1志望の岡山大学を受験して不合格、中期日程で下関市立大学合格。私が「第1志望に拘ってもう1年頑張ってみるか」と声をかけると、「この1年、これ以上はできないというくらい必死に勉強しました。これをもう一年続ける気力は残っていません。限界です。悔いはありません」と言って合格校に進学しました。現在は当時から語っていた夢、姫路駅前で喫茶店を経営しています。

いずれも、自分自身と闘いながら、悔いを残したくないとの思いで挫けず努力した生徒です。これが限界だと思えるほどに努力すれば、どんな結果であれ、それを納得して受け入れられるのだということをお教えされました。今の皆さんはどうですか。これが限界だと思えるほどに努力しているでしょうか。ぜひ今の自分と向き合って省みてください。

最後に、明日から冬休みに入りますが、不要不急の外出、3密の場所への出入りは避け、やむなく外出した場合も、手洗い・消毒とマスクの着用を徹底し、皆さん一人一人が新型コロナウイルス感染予防に努めてください。それでは、1月7日にこうして全員が元気に登校してくれること、令和3年が皆さんにとってすばらしい1年となることを祈念して、式辞とします。